

教育

✉ edu@asahi.com
金曜～月曜掲載

「学修成果」の把握 大学手探り



東京女子大の図書館でグループ学習に取り組む学生たち=東京都杉並区、同大提供

増える実施大学 354校に

文科省によると、客観的なテストなどで学生の学修成果の把握を行っている大学は、2015年度354校。全体の半数近くにのぼり、11年度と比べて私立大を中心に143校増えた。

学修成果を把握するため、PROGをはじめとした外部のテストなどを使っているのは240校（約68%）、学生へのアンケートの実施は151校（約43%）、評価項目を示す「ループリック」の導

入は51校（約14%）だった。また、把握した学修成果の活用法としては、7割以上にあたる263校がカリキュラムや教育方法の改善に使っており、半数近くの174校が学生への履修指導やキャリア相談に活用していた。

「学修成果の可視化」をテーマにした文科省のAPに選ばれた大学は、東京女子大のほか、関西大、長崎大など23校ある。

来週の
朝日・学生新聞
http://www.asagaku.com/

子どもが将来なりたい職業の上位に入るようになった「ユーチューバー」。

ネットの世界はだれが見るか分かりません。こうした危険性をはじめ、動画の撮影・編集方

法や相手に伝わる表現方法などを学べる小学生向け講座「ユーチューバーアカデミー」を取材しました。参加者だけでなく、実際に編集・投稿された動画を見た保護者も楽しそうでした。また、朝小リポーターが大人気ユーチューバー、ヒカキンさんをインタビュー。12日掲載予定です。

大学で学んだことで、学生がどれだけ成長したか。そうした「学修成果」をはかる方法などについて、中央教育審議会のワーキンググループが議論している。先駆的に取り組む大学を訪ねた。

分厚い本を読みふけたり、ノートパソコンでリポートを書いたり。夕暮れ時になつても、東京女子大（東京都杉並区）の図書館は、大勢の学生でぎわっていた。学生たちが授業以外に勉強する時間が、徐々に延びているという。

その理由の一つとして同大が考へるのが、2014年度に始めた「学修成果の可視化」の取り組みだ。文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」（AP）に選ばれ補助金を受けており、18年の創立100年に合わせた大学改革の一環が始まつた。

学生・卒業生に聞き取り 授業改善

何度も調査に答えることでアンケート疲れを感じる学生が出た。成績評価につながらない調査には、回答が少ないケースもあるという。APリーダー

た」。AP責任者の小田浩一教授はこう説明する。同大には、現代教養学部の1学部しかなく、文理を問わず幅広い分野を学ぶ「リベラル・アーツ教育」を進める。小田教授らは「課題をクリアしたかどうかで判断しやすい理系学部に比べ、学修成果の測定が難しい」と認める。

そんななか、学生の成長を把握するためには、アンケートだ。

「日本の歴史への理解がどのように進んだと思うか」といった質問や授業以外の学習時間などを尋ねるので、卒業するまでに4回行う。

さらに、卒業論文などには、学生がどんな点を意識して取り組んでいたか、大学は社会に説明していくことが求められる時代になつた。「どんな教育をしているのか、大学は社会に説明していくことが求められる時代になつた。」APの開始から3年が過ぎ、課題も見えてきた。

◆感想や、教育に関する情報を寄せ下さい。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4855へ。

取り組みによって、教員側も力を測定できるとされる外部テスト「PROG」を使う。ほかにも、卒業生には大学でどんなことが身についたかを、卒業生を採用した企業には大学へのニーズなどをアンケートで尋ねている。

見えてきたのは、同大の学生らがリーダーシップや突破力に課題がある、という傾向だっただ。このため、大学は18年度からカリキュラム改革に乗り出すことにした。与えられたテーマについて学生たちが議論して進め、「問題解決型授業」や、1年生前期からのゼミを始めるという。

樋脇教授は「今はAPの補助金で専門の職員を雇うなどして取り組んでいるが、長く続けられるようにするには、今後は先導していく教職員を育てることが重要だ」と話す。（増谷文生）